

# 被災地支援の現場から ～東日本大震災被災地支援を通して、1.17芦屋を思う～

## 絆・復興

昨年4月から石巻市に派遣職員として出向している職員からメッセージが届きました。

明けましておめでとうございます。石巻市建設部下水道建設課に災害派遣として出向しています島村と申します。

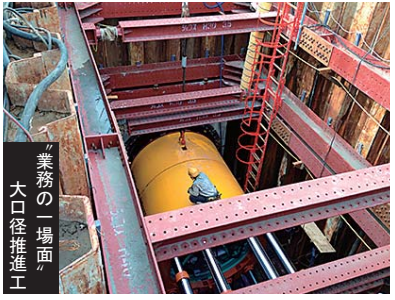
皆さんは、平成23年3月11日に起こった東日本大震災から3年以上が経過した被災地がどれくらい復興したと思われませんか。私は3年以上も経過していたため、石巻市の復旧はかなり進んでいるものだと思っていました。しかし、未だ多くのかたが仮設住宅に生まれていて、道路にも痛んだ箇所が多く目につきます。

確かに、震災で発生したがれきなどは無くなっている、通常の生活を送られているかたもおられ、震災当時より復旧が進んでいるのは事実なのですが、まだまだ復興は程遠いのが現状です。

また、平成26年4月からの勤務ですが、この期間で働いて思うことが、皆さ



んの支援の大切さです。石巻市職員は、少しでも早く石巻市を復興させるべく、日々頑張っておられます。私もその力に少しでもなれるようにライフラインである下水道の復旧業務という職務に専念しています。しかし、あまりにも多くの仕事に対して職員の数が少なく、思うように復旧が進んでいません。石巻市役所には現在、200人以上のかたが災害派遣として、さまざまな部署で頑張っておられますが、被害が尋常ではなかったため、人が足りていません。そのため、石巻市の住民のかたがたが以前の生活を取り戻せるように、これからの支援が必要だと思いましたが、現地の状況を見るために観光することなども支援と思えます。また、被災したことを忘れずに記憶していただくことも支援の一



つだと思っています。現在では、3月11日以外ではあまりニュースで取り上げられないですが、皆さんが記憶にとどめているだけで大きな支援になると思います。

次に、阪神・淡路大震災から20年という節目に石巻市へ災害派遣に行かせていただいていることとは、この派遣期間で得た知識や経験をもち、今後、起こるであろうと言われている東南海・南海地震の際に、少しでも芦屋市の力になればと思います。確かに地震などの災害が起こらないことが一番なのですが、起こった際に、今回の派遣で得られた知識や経験を生かし、下水道の復旧を行う上で多少なりとも芦屋市の力になればと思っています。また、この期間に、一緒に働いた各自治体の職員との交流を今後も続けていき、各自治体の良いところなどを参考に、芦屋市の向上に少しでも力になればと思っています。

石巻市は、海も山もあり、海の幸や山の幸が豊富なところですが、その石巻市が以前のような活気や街並みを取り戻せるように、被災したことを皆さんが忘れないようにしていただき、これからもご支援ご協力をお願いします。

明けましておめでとうございます。石巻市総務部防災推進課に災害派遣として出向しています池澤と申します。

私が石巻市へ派遣されたのは、今回で2度目となります。1度目は、東日本大震災発生直後に避難所運営業務に5日間従事していました。当時の石巻市内は津波の爪痕がはつきり残り、市内沿岸部はがれきに覆い尽くされている状況でした。

それから3年余りが過ぎ、石巻市への2度目の派遣が決まりました。3年ぶりの石巻市内は、震災当時のがれきも撤去され、街並みはきれいになって印象を受けましたが、正直、何もなくなっただけとも感じ取れました。

きれいになった街並みの傍ら、市内随所で工事が行われ、復興を肌で感じることができま



が、完全な復興を遂げるのはまだまだ先といった印象を受けました。復興の進む中、自らがこの街で業務に携わること、本場に身が引き締まる思いでした。

私は、現在防災推進課消防グループに所属し、主に震災により失われた地域消防力の向上、充実強化を目的として、被災した消防団施設、消防団車両・防火水槽の整備事業とそれらに付随する国・県補助金事務を担当しています。

石巻市は市域が広く、芦屋市(18.57 km)のおよそ30倍(555.78 km)もあり、牡鹿半島、離島等の常備消防では不足する消防力を補うため消防団のかたの協力が必要不可欠となります。特に先の震災により沿岸部の消防関係施設は甚大な被害を受け、消防活動に著しく支障をきたしていることから、施設の早期の回復が必要であり、



一意専心の思いで業務に取り組んでいるところ



今年には阪神・淡路大震災発生から20年の節目の年となりますが、被災時に復興業務に携わった多くの芦屋市職員が定年退職を迎え、当時を知る職員が減少しています。私は、今回の被災自治体派遣業務に携わったことにより多くの知識を学び、多くの経験をしました。芦屋市に戻った際には、石巻市で復興業務という貴重な経験ができたことを今後の業務に生かし、また復興業務に携わったことのない職員に伝えていきたいです。

最後に、派遣期間も残り3カ月となりました。残り少ない期間微力ではございますが、石巻市の復興のため全力で業務に取り組んでまいります。



●プロフィール 島村洋平(しまむらようへい)



平成13年4月1日芦屋市採用。下水道課、水道業務課などを経て、平成26年4月1日から石巻市建設部下水道建設課に派遣。

石巻市下水道建設課の皆さん

●プロフィール 池澤周哉(いけざわしゅうや)

平成22年4月1日芦屋市採用。文書行政課を経て、平成26年4月1日から石巻市総務部防災推進課に派遣。

ヴィッセル神戸 少年少女芦屋サッカー教室

■日時 2月15日(日)午前10時～正午  
【受付】午前9時30分～<荒天中止>

■会場 総合公園陸上競技場

■内容 ヴィッセル神戸スクールコーチによるサッカー教室

■対象 市内小学1～4年生(経験問わず)・60人  
\*保護者同伴でご参加ください。  
\*応募多数の場合は抽選

■持ち物 運動靴(スパイク可)・運動のできる服・ボール(1人1球)・水筒・タオル

■申し込み 住所・氏名・ふりがな・性別・学年(年齢)・電話番号・ファクス番号を記入し、1月16日(金)までに郵送またはファクスで下記へ

問い合わせ スポーツ推進課  
☎22-7910/FAX22-1633(〒659-0072 川西町15-3)

あなたのタンス遺産で、世界に学びのチャンス

うっかり書きそんじてしまった郵便はがき、使っていない切手やプリペイドカードなど、あなたのご家庭に「タンス遺産」は眠っていませんか。

ユネスコ世界寺小屋運動は、こうしたタンス遺産を募金にかえ、学びの場を世界に広げていく運動を行っています。

市では、市役所の各所・すべての市立小学校および中学校・各高等学校・芦屋病院などに投函箱を設置しています。

世界には色々な理由で学校へ行けず、読み書きや計算ができないひとが沢山います。11枚のハガキで1人がひと月学校に行けるのです。

ユネスコ世界寺小屋運動にご協力をお願いします。

問い合わせ  
芦屋ユネスコ協会事務局(生涯学習課内) ☎38-2091

●「広報あしや」バックナンバーは、市ホームページ『広報あしや ON LINE』でご覧いただけます。